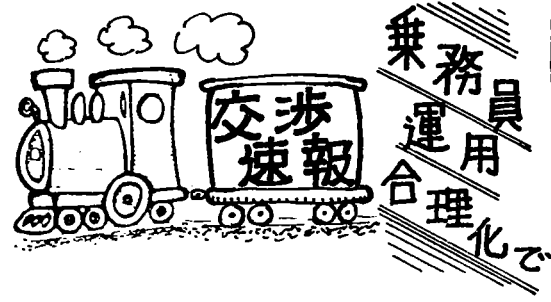


三里塚・ジェット闘争貫徹ノ「国鉄35万人体制」粉碎ノ

11月1日に実施できなかつたから 今度は12月1日実施にしたい』と再提案



少団交 報告

当局の政治的・場当りの合理化 強行の姿勢をはげしく糾弾!

動労本部「反動分子の」九月裏切り妥結↓十月一日東京三局実施』を唯一最大のテコとして国鉄当局が異常なまでの「政治生命をかけて」(反動秋山局長并)強行せんとした「乗務員運用合理化千葉局十一月一日強行実施」の攻撃は、動労千葉全組合員一丸となって叩いぬいた「55.10ダイ改」闘争にみき続く「反合」三里塚10月総決起行動」の前に、もののみごとく粉砕されてしまった。10月15日支部代表者会議での固い決意と方針にもとづく全支部職場総決起と10月総決起の熱気をあふれさせた10.27乗務員運用合理化粉砕局前総決起集会、さらに10月17日に発生した総武線東中野事故の真の原因が運転保安無視の合理化にあることを明らかにし斉藤運転士に対する不当逮捕・長期拘留に抗議し国労の仲間との共闘をもって反合運動保安闘争を叩いてきた力かこの偉大な勝利をきりひらいたのである。

なぜ「11月1日強行」の路線が破壊されたのか——当局は反省してみよ!!

この様な勝利の上に南かれた11月7日の交渉で、ガツクリの表情もかくせない国鉄当局は「先般提案していた乗務員運用合理化11月1日実施は諸般の情勢の中で不可能となった。ついでには実施期日を12月1日として正式に本日修正提案したので何とぞよろしく御協力をお願いしたい」との再提案を行ってきた。

何の反省も展望ももち合わせない、ただただ焦りと哀願からのみくり返されたこの当局修正提案に対し、当然ながら各支部からの説明員の怒りの声がかんた。

○「何がなんでも11月1日実施するんだ」というこの向の当局側の考え方やり方に最大の問題がある。秋山局長が「政治生命をかけてでもやる」と暴言をはいてまで強行しようとした当局側の基本姿勢をまず反省し改めるべきだ。

○赤字だとか要員事情とかの当局の企業責任をあげて、それを乗務員削減・乗務効率アップの合理化理由とする事など誰が認められるか。
○東中野事故の問題を真剣に考えて見

よ、今でさえ乗務員はギリギリの条件で軽微な運転を強いられている。これ以上労働強化して安全が保てるか、

○おれ達の労働条件は金で買えるものではない。生命をかけて運転してるんだ。

○乗務員労働の根幹にかかわるこんな重大問題を「東京が9月妥結したから千葉も11月1日からやれ」という根拠はなり立たない。

○「東京と千葉でズレがある」とまづいと当局が主張するのだから、東京での10月実施を凍結し白紙に戻して再提案するのがスジだ。

等々、怒りをこめた追及がどんどんなされ、当局は全く説明できぬほど追いつめられた。

まず、「申3号」要求に応えよ! 『乗務員運用合理化』提案を撤回せよ!

休憩後再開された午後の交渉では「申3号」の基本要素をめぐって種々の組合主張を行うとともに、当局の反動的・場当りの提案に対し、内容、その矛盾を鋭く追及した。最終的に、
①動力車乗務員の切実な労働条件改善
②申3号の申し入れ
③申3号の

(裏へ続く)



『55.10ダイ改』に伴う 昇格数を確認する

「55.10ダイ改」交渉の中で確認した各職の昇格数について、次の通り確認した。なお、張付け、取扱いについては別途交渉の中で明らかにさせることとした。

職名	昇格数・取群				
	10取	9取	8取	7取	合計
事務	2	2	1	1	6
動力車乗務員	76	62	11		149
車両検査長	1				1
車両検査	56	32	17		105
車両検修				1	1
運転管理		1			1
運転		2	4	3	9
構内運転				3	3
総合計	135	99	33	8	275

※ 実施期日、55年10月1日

先行解決が前提である。
②乗務員運用合理化については提案そのものを直ちに撤回すること。
を強く申し入れ、この日の交渉を打ち切った。

10月を上まわゆる総決起体制で 「12月1日実施」策動を再び粉碎せよ

「千葉局11月1日実施」を強行せんとした当局の政治的、反動的意図は、わが勤労千葉の全組合員一丸となつての総決起によつて実力で粉碎された。

「千葉局11月1日に必ず実施すること」という条件つきで東京が9月末結了10月1日実施にふみ切つたのに、なぜ、千葉は11月1日強行しなかつたのか、当局の約束違反はケシカラン！と、今日「本部」反動分子が血相かえて国鉄当局にあたり散し

どなり散しているという醜態でみじめな姿の中に、今回の攻撃の本質、狙いが何であつたのか、更にありありと浮び上がっている。自らの裏切りと屈服をインペイせんが為、当局と一緒になつて、即ち勤労千葉の背後から襲いかかる「本部」反動分子、労働者の利益を売り渡し、自らのセクト的延命のためには反合即争すら完全に投げすてるばかりか、積極的に当局と手を組み「35万人体制」実現の先兵をかつて出る「本部」反動分子は、全ての国鉄労働者に敵対するものといわれねばならない。

今日、より一層の焦りから強められるであろう当局と「本部」反動分子一体となつた「乗務員運用合理化」強制「12月1日実施攻撃」勤労千葉破壊策動を再び全組合員の総決起体制をもって粉碎していかなくてはならないか。